

日本労働年鑑 第58集 1988年版

The Labour Year Book of Japan 1988

第五部 労働・社会政策

V ILO

概要

☆ 八七年にはILO総会が二回開かれた。六月の第七三回総会は通常総会であり、九月下旬から一〇月上旬にかけて開かれた第七四回総会は一一年ぶりの海事総会であった。

☆ 第七三回の事務局長報告は「多国間協力の将来に関する省察——ILOの展望」と題して、第二次大戦直後人々に希望を与え、荒廃した世界の再建に奮い立たせた国連システムを中心とした多国間協力システムを再活性化し、現代世界の深刻な貧困と失業の打開にあたるべきだ、と訴えた。この総会では、激しいドル安傾向を背景とした八八～八九会計年度予算の審議は、きびしい緊縮気運に支配された。また、「雇用促進と社会保障」および「建設業における安全衛生」に関して第一次討議が、「技術協力におけるILOの役割」に関して一般討議が行われた。さらに、この総会でILO理事会理事の改選が行われ、日本は労使ともに正理事の議席を確保した（政府は常任理事国であるから改選の対象にならない）。

☆ 第七四回総会（海事）では、船員の福祉に関する条約・勧告など、合計四つの条約と二つの勧告が採択された。

☆ このほか八七年に開催された主な会議としては、第四回ヨーロッパ地域会議がある。ここでは、深刻な失業を打開するため、投資と消費の拡大による経済成長の促進、高齢化対策、技術文化教育の推進などが議論された。その他、「雇用および構造調整に関するハイレベル会議」が開かれた。

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

****年**月**日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1988年版(第58集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)